

河北地区

5年ぶりのおみこし

4月16日(日)、飯野山神社の春季例大祭が開かれ、5年に一度の「みこし渡御(こぎり)」が行われました。

当日は穏やかな天候の中、天狗の面が「猿田彦」の先導で、重さ900キログラムのみこしが、白装束にえぼしという

伝統の衣服を身につけた「輿丁(よちよう)」と呼ばれる若者達に担がれ、本殿を出発しました。

5年ぶりとおあって、みこしが現れると神社入口の大鳥居前で待っていた大勢の人々から、大きな拍手がわきあこつていました。またその後は120人ほどが参列を組んで、一日がかりで地域を練り歩きました。

春季例大祭は、農繁期前に五穀豊穡と無病息災を願う祭りとして地区に伝わっているものです。みこし渡御は昭和32年以降中止されてきました。

しかし、平成13年に「御鎮座1900年記念」として4年ぶりに復活したことを機に、5年に一度実施することになったのです。

また、二の鳥居前の的場では、数え年7歳になる子供達の健やかな成長を願って、恒例の「稚児やぶさめ」が執り行われました。



「雄勝浄化センター」供用開始!

雄勝地区



▲ 浄化センターの完成を祝うテープカット

生活環境の改善や水質の保全、公衆衛生の向上に大きな期待が寄せられる公共事業として、平成12年8月から整備が進められている特定環境保全公共下水道事業の終末処理施設「雄勝浄化センター」がこのほど完成し、4月27日(木)、雄勝中学校の隣地に建設された同センターで供用開始式典が行われました。

式典では、市長が「自然豊かな海を守り、生活環境が大きく改善されるまちづくりへの大きな一歩を踏み出したことに感謝いたします。今後も、地域住民の生活基盤の充実を図るため、地区全域の下水道普及に全力で取り組んでいく考えです。」とあいさつ。

センター用地を提供された山下音彦さんと吉野亮悦さんに感謝状を贈呈したあと、施設の完成を祝うテープカットを行い、市長が通水ボタンを押して、供用がスタートしました。

式典終了後、出席者は、「嫌気好気ろ床法」と言われる処理方式を採用した施設内を見学。下水を処理した後に出る汚泥の発生量が従来の処理法に比べ半分以上になるなどの説明に聞き入っていました。



▶ 汚泥の発生量が少ない施設を見学



▶ 緑に囲まれた鉄筋コンクリート三階建の施設



このコーナーでは、催し物やまちのできごと、地域の情報などを紹介します。

河南
地区

パイプオルガンの 素晴らしい音色が館内に響き渡る



4月22日(出)に遊楽館で開催された「こもれびフォーラムヒルズコンサート」では遊楽館オルガニストボランティアの方がロビーにあるパイプオルガンを演奏し、詰めかけた約80人の観衆を心地よい音色で魅了していました。

さつき・山野草展

前谷地さつき同好会(会員20名)による、「さつき・山野草展」が開催されます。

と き

6月10日(出) 10:00~17:00

6月11日(日) 9:00~16:00

ところ

河南体育センター(河南総合支所となり)

出 展

さつき130点

山野草150点

入 場 無料



4年に1度の 大祭典



4年に1度行われる日高見神社神輿巡業春季豊作祈願大祭が4月16日(金)、桃生町太田地区で行われました。

威勢のよい掛け声とともにみこしが区内を駆け巡ると、観衆からは大きな声援が飛び交いました。また、桃生小学校日高見はねこ会の子どもの「はねこ踊り」が、祭りに花を添えました。

桃生
地区

プロの民謡を味わう

4月29日(出)、石巻市とNHK仙台放送局の共催で、ラジオ放送「民謡をたずねて」の公開録音が、桃生公民館文化ホールで行われました。

これは、桃生総合支所庁舎と桃生公民館の落成を記念して行われたものです。民謡歌手の原田直之さんや川崎マサ子さんなどが出演しました。

会場には、石巻市内を中心に約260人の方々が集まり、素晴らしい歌声に耳を傾けていました。

